

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、目指したいケアを職員で話し合い作りましましたいつでも見られるところに掲示してあります。	理念の「笑顔のある暮らし」を目指し、「その方の個性を大切にします」「尊厳ある心穏やかな生活」など、フロアに事業所として目指したいケアを掲示している。管理者は年度初めに理念について職員と話し合いを行うなど、見直しを行い、共有しながらケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナで地域のお茶の間や催しが軒並み中止や廃止になったり、施設の方針で参加をに送っていますが、ボランティアさんを受け入れたり、地域行事に積極的に参加していました。	事業所は恵まれた市街地の中で、以前は地域の民生委員の方のシーツ交換や生け花ボランティア活動を受け入れるとともに、利用者は地域のお茶の間への参加など、様々な場所へ出かけ、日常的に地域活動を行っていた。現在もコロナ禍の影響を受け外出が難しい状態もあったが、隣地の障害施設のお弁当を購入するなど、今できる事を大切に、皆で食べる楽しみなどを支援し、状況を把握しながら再開の機会を待っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所申し込み前の見学などで介護相談を行っております。家族が抱えている不安に寄り添い、傾聴助言を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回特養と合同で行い、地域の地見者や民生委員、家族と意見交換をおこなっています。	事業所は複合型施設の中にあり、地域密着型特養や地域包括支援センターなどが同じ建物の中にあり運営推進会議を合同開催している。コロナ禍のため、運営推進会議は2ヶ月に1回文章での開催を行った。1ユニット9名の利用者家族に、入所の折に運営推進会議参加について参加協力をお願いすることで、1年に1回位ならと順番に家族が参加され、事前にタブレット等で意見を伺うなどして参加されている。運営推進会議の記録は、全員の家族と関係者に毎回送付しており協力関係を築けるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて地域包括支援センターや市役所の担当部署に相談にのっていただいております。	地域包括支援センターも同じ建物の中にあり、運営推進会議の記録も市役所に届け、交流もあり、いつでも相談できる関係性はできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームが5階にあり、安全対策のために入口を施錠しています。家族には入所申し込みの段階で説明し、ご理解いただいております。	事業所が建物の5階にあるため、入所時家族へ説明の中で、5階の入口ドアが施錠されていることを伝え家族の面会時いつでも開けられるよう、家族には暗証番号を伝えている。マニュアルは整備されており、職員研修を実施している。職員は研修記録を提出するとともに、留意しながら日々の生活を支援している。	
7	5-2	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待。身体拘束マニュアルが職員全員に配布されており、年2回法人主催で研修が行われております。	虐待防止マニュアルは全員に配布され、研修は動画視聴を利用し職員は報告書を提出している。年に1回ストレスチェックを行い、管理者は言葉使いなどで気になった時、できるだけその場でアドバイスを行い月に一度のカンファレンス時には言葉でも伝え、いつでも相談に乗れるよう心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて地域包括支援センターに相談にのっていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、不安や疑問がないか確認しながら行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの入り口に意見箱が設置してあります。家族への近況報告時などに伺うようにしています。	利用者家族から、年に1回程度運営推進会議に参加してもらい意見をもらうこともある。コロナ禍の現在、面会が難しい状態で日用品の購入や確認電話時には近況報告とともに、「何かご意見ありませんか？」や、必要物品受け取り時に確認を心がけている。コロナで面会が難しい時期なので、広報紙やお便りをもう少し頻回に出してほしいなどの意見が家族からあった。もらった意見はすぐに実施したり検討中のこともあるが、できるだけ対応に努めようとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から何でも話せる環境作りを心掛けております。毎月のカンファレンスでも意見交換しています。	職員の世代交代の流れがあり、職員が意見を出しやすい環境になるように管理者は心がけている。コロナ禍で自宅待機の方もおり、日中早番・中番・遅番3交代と夜勤のシフトで業務に取り組んでいるが、職員人数に限られ、管理者は利用者が落ち着いているか？職員の無理はないか？など、話せる環境への配慮しながら業務を進めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境作りを心掛けています。必要に応じて、業務の見直しやサポート体制の構築に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ひとりひとりがスキルアップを図れるよう資格取得の機会を大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の参加や次週の受け入れ、情報交換の場を設けています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人の不安や要望を傾聴し思いを受け止めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたりこれまでの経緯や苦勞についてゆっくりお話を伺うようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、その他周囲から情報を収集してニーズの把握に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にとって生活の場であるということをお忘れず、職員がともに生活しているという意識でケアにあたっています。		
19	7-2	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所申し込みの段階から家族の役割について説明しています。家族の協力が不可欠であることを理解していただいています。	入居時の居室のセッティングなどは出来るだけ利用者本人の今迄の生活や嗜好に沿うように、家族への協力をお願いしている。また協力病院受診時は事業所で送迎するが、それ以外の受診時は家族の方に協力をお願いしている。本人を共に支えながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力のもと、親族や知人との交流を継続しています。	利用者から家族や友人に手紙を出して旧友を温めたり、かかりつけの美容院に家族と共にいつものように出かけられる方もおられ、これまでの生活の中で大切にされてきた関係を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者ひとりひとりの性格を把握しながら食事の席や外出時のメンバーの配慮をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても家族からの相談に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以前はアンケート調査をしていましたが、うまく意向をつかめないのが、職員が日常で得た情報を共有しています。	入居前の情報を確認したり、アンケート調査などを行い、出来るだけ意向を聞き取りたいと管理者は実施した。職員は日々の生活から見えてくる利用者の状況や表情・行動をしっかり見て把握・記録し、それらを話し合い、共有しながら支援に繋げている。	
24	9-2	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、担当ケアマネージャーや利用した施設の職員から可能な限り聞き取りを行っています。	入所の折に家族の方からアセスメントの一部分を記入してもらっている。これまでの暮らし・毎日行っている事や生活の過ごし方・家族の状況等を記入してもらい、入居前担当のケアマネージャーや入居迄利用していたサービスの様子などを聞き取り、馴染みの暮らし方や意向把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本院の生活ペースを大切にされた支援を心掛けています。特に新規受け入れからしばらくは詳細に記録を付け状態把握に努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向にそってカンファレンスで話し合い支援の方向性を決めています。	今年度から介護ソフトを導入して日々の様子を随時記録している。居室担当者と計画作成者が入所時のアセスメントから定期的にモニタリングを行い、利用者と家族の意向に沿って見直しを行っている。コロナ禍での対応もあり面会できないので、サービス計画書を家族に送り、電話で意向を確認しながら様子を伝え話し合いながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌に反映しない細かい情報もケース記録に残し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉用具や併設施設の施設を活用し必要なサービスが適切に提供できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員ボランティアの受け入れや隣接している障がい者授産施設のイベントに参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の希望に応じています。施設の協力病院以外は、家族に受診をお願いしています。必要に応じて主治医に手紙などで情報提供しています。	現在、利用者のほとんどの人が協力病院の協力医に受診しており事業所の職員が送迎し月一回の定期受診を行っている。本人・家族の希望により以前からのかかりつけ医には家族に受診付き添いを依頼している。病院の診療項目にない所へは家族送迎を依頼し、必要に応じて情報提供し利用者の安全と健康面での支援に努めている。訪問歯科医の訪問もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師に助言をいただいたり、協力病院の看護師には適宜情報共有し適切に受診できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院の地域連携室と連絡を取り合い、退院に向けて支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の、当施設でできないことを、入所時点から説明しています。状態が変化しても、本人、家族の希望に沿った支援を行っています。	入所時に重度化した場合の対応について説明し、契約書にも「退居の目安となる項目」があり契約時に同意を得ている。事業所での看取りは行っていないが、要介護度が進み、グループホームでの生活が難しくなってくるとその時点で説明し、その状態の変化により住み替えなどが必要になった場合には、特養への入所や他施設へ移行できるよう対応に努め相談に乗っている。その場合には情報提供を行い支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設施設の看護師や法人の病院などで研修を行います。	急変や事故に備え、併設特養の看護師が講師となり、AEDの使い方や酸素ボンベの使い方など研修を定期的に行っている。救急車事前準備のアクションカードや、グループホーム独自の緊急マニュアルのフローチャートが作成されており、緊急時の連絡先や急変時の搬送手順が分かりやすく用意されている。緊急時には協力病院へ直接連絡し職員が車に乗せて連れて行く時もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、施設全体で消防訓練を行っています。	5階建ての高層建物内に特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービスセンター、居宅介護支援、地域包括支援センター、グループホームがあり、消防署の協力により年2回防火訓練を実施している。2階、4階の厨房が火元と想定し、この2月にも訓練を実施した。今回はグループホームが火元にはなっていないので、非常口や避難経路の確認を行った。災害時の備蓄品等は、消費期限などもあるので複合施設全体で一括して管理・保管している。	複合施設全体として防火訓練に取り組み、全体的な取り組み内容を記録に残してあるが、グループホーム独自の記録を残すことや、グループホームとしてのマニュアルや非常持ち出し品のチェックリストを整備することが望まれる。火災だけでなく、近年では地震や水害なども起こりうる事を想定して、全職員が情報共有した避難体制を整備することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳やプライバシーを損ねない会話や対応を心掛けています。	プライバシー保護や人権保護に関するマニュアルが整備されている。月一回のペースでカンファレンスが行われ、その中で研修や職員間で話し合いが行われている。プライバシー保護や日頃の言葉使い、排泄時の声掛けなどグレーゾーンに含まれているかなど具体的な例を出して話し合いを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の「～したい」という思いを大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな日課はありますが利用者の体調や気分に合わせて支援ができるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自分できめてもらったり、散髪の際は本人と話し合いながら行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事で季節を感じてもらえるように旬を取り入れて献立を作ったり、イベントに沿ったメニューを取り入れています。	旬の食材、季節の物を取り入れるように工夫して一週間単位で献立を作成し掲示している。物価上昇もあり厳しいが、職員が買い物に行き、利用者の健康保持を考えながらメニューを工夫している。隣の障害者事業所で作っている弁当を月一回位に頼み、利用者も楽しみにしている。入居時に自分用の茶碗や箸・湯呑などを持って来てもらい馴染みの物を使って貰っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調や嚥下能力に合わせて食事の形態や量を工夫し、摂取量もチェック表にて把握しています。必要な方には栄養補助食品も活用しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしています。必要な方には訪問歯科の受診支援を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表でひとりひとりの排泄パターンを把握したり、尿意、便意のサインを見逃さないようにしています。また昼夜で排泄用品を変えて失敗を減らし、気持ちよく排泄できるよう支援しています。	排泄チェック表により排泄のパターンを把握しており、約半数の人が自立している。車椅子の方も居られるが声掛けし排泄支援に努めている。夜間帯も定時に声掛けしている。便秘の方もおり、食物繊維やヨーグルトなどを取り入れたり、投薬で調整したりで排泄支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から乳製品や食物繊維が多く取れるような食事に努めています。便秘傾向の方には漢方やその方にあった下剤を処方していただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は利用者の体調や希望に沿って行なっています。入浴剤をつかってつるげようをしたり、気分転換に併設施設の大浴場で銭湯気分を味わっています。	入浴は1日3人を目安にして、およそ週2回位入浴している。浴室も脱衣場も広く明るくて圧迫感がなく、ゆっくりと過ごせる環境となっている。一人入浴でリフト浴になっているので足の不自由の方にも対応できている。入浴剤を入れたり、1人ずつお湯を入れ替えている。洗面器等、個人のものには名前をつけ用意している。時には2階フロアの他サービスの大浴場で季節の楽しみ、ゆず湯等に行くことで温泉気分を味わって貰い、気分転換して入浴を楽しめるように支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で使い慣れた寝具を持参したり、室温や照明の明るさも本人に合わせて気持ちよく寝れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人台帳に薬剤情報提供書を添付いつでも確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	余暇活動はみんなで楽しむものと、個々の趣味に合わせたものを行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に近隣のスーパーに買い物に行ったり、季節に合わせた外出行事を計画しています。また天気が良ければ散歩やドライブを楽しみます。また家族の協力のもと、外食、外泊、旅行ができるよう支援しています。	コロナ禍で外出も難しく、日々の食材は職員が近くのスーパーに買い物に行き、米から食品すべて購入している。天気の良い時は利用者と近くを散歩したりドライブをして楽しむように支援している。家族によってはコロナワクチン注射を希望しない人もいるので注意深く対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて、自分で管理をお願いします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状をご家族に出しています。希望があればご家族に電話をかけています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には利用者が作った作品を展示したり、入り口には季節ごとの飾りつけをしています。また室温、湿度に配慮したりテレビの音や職員の動き回る音にも気を付けながら居心地よく過ごせるように工夫しています。	5階のエレベーターホールから入ると、グループホームの看板が掛けてあり職員の名前・写真が紹介されている。5階からの見晴らしがとても良く明るい。信濃川や県庁、新潟の街並が見渡せて素晴らしい環境である。廊下も広く、畳のスペースにソファもありくつろげる空間になっている。季節の展示や利用者の書初めが貼られていた。リビングの普段いる所に理念が大きく掲示されいつも見えている。食堂のテーブルごとの空間も広く、車椅子の方も安心して移動できるスペースになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にはソファを置いてゆったり過ごせる工夫をしています。また窓際にもソファを置いてゆっくり一人で外を眺めたりできるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は使い慣れた物や本人の好みの物を持参していただいています。	居室ごとのドア横に居室番号が付いており、入居すぐに居室の場所が分からない時は名前を付いたり、馴染みのマスコットを付けて区別している。各居室には入所時に馴染みの家具など、あまり大きすぎない物を持って来てもらっている。コロナ禍で面会が難しい時期は居室の様子を写真を撮り家族にも相談している。各居室にはベッド、クローゼット、洗面台が備え付けられている。リネン類は施設で同じ物を使いシーツ交換は職員が行っている。コロナ前はボランティアが入っていた。また、出来る利用者と一緒にモップ掛けを行ったり清潔で綺麗に掃除され、居心地よく生活できる環境となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	立位の不安定な方には手すりを設置して安全に立ち上がれるようにしています。またトイレや自室がわからなくなる方には張り紙や表札を掲示しています。		